

【「いっしょう」のお願い】



修学旅行。水引き製作中です。

本校の先生で、このまなざしをチェックしてくれている S 先生との会話です。

**S 先生**「校長先生、わたしのクラスの A さんが、おもしろいこと言っていたので、聞いていただけますか」

**私**「もちろんです。どうぞ。どうぞ」

**S 先生**「A さんが私に頼みごとがあったんです。その時に『先生、いっしょうのお願い!!いや、これはこの前使っちゃったから、にしょうのお願い。頼みます。やってください』っていうんです。A さんにとって、一生は何度もあるのかなあって思って。この会話はぜひ、

校長先生にお伝えしたいと思って」

**私**「おもしろいなあ。いっしょう、にしょう、さんしょうのお願いですね。でも S 先生、A さんは一生を一勝とかと思っているんじゃない。どんな字を思い浮かべているのか、知りたいなあ。聞いてみてくださいますか？」

その後、A さんに事の真相を確かめることができました。すると、「いっしょうのしょうは、生きるっていう字でしょ。でも、一生のお願いは前に使っちゃったから、二生って言ったの。聞いてもらえるかもと思って・・・一生は一度だけだけどね」

なんと頭の柔らかい A さん。このように機転が利く子ども。こんな姿もめざす子ども像の1つになるなあと思いながら、字の間違いを指摘してしまった私、反省致しました。A さん、失礼致しました。



子どもと一緒にいると、**子どもの特殊能力!?**に驚かされることしばしばあります。この場面もその1つです。

下駄箱そうじをするときに、下ばきを写真のように全部出して、下駄箱をぞうきんがけします。

しかし!!出された靴のほとんどに名前はありません。どうやって元にもどすのでしょうか?

心配になり「誰のかわかるの?」と声をかけると、「これは〇〇ちゃんのもでしょ。これは△△くんの」というように、いとも簡単に元に戻していくのです。

な・な・なんでわかるんだあ〜。子ども、すごし!!

寒い日の朝。首に巻く「襟巻き」を首から外して頬ずりをしていたので

「まかないの?」と訊くと

「あんまりきもちがいいから」と。

う〜ん、ふかふかだもんね。

